

宇宙開発の現状報告

(平成 19 年 1 月 24 日(水) ~ 平成 19 年 1 月 31 日(水))

平成 19 年 1 月 31 日
宇宙開発委員会事務局

宇宙開発委員会の動き

1 月 29 日(月)

- 第 8 回計画部会

【松尾委員長、青江委員、池上委員、野本委員、森尾委員】

1 月 30 日(火)

- 第 1 回安全部会

【松尾委員長、青江委員、池上委員、森尾委員】

- 第 2 回推進部会

【松尾委員長、青江委員、池上委員、森尾委員、野本委員】

1 月 31 日(水)

- 第 4 回計画部会輸送系ワーキンググループ

【松尾委員長、青江委員、池上委員、森尾委員】

宇宙開発に関する海外の動向

1 月 23 日(火)

- ISRO、地球観測衛星を 2007 年末までに打ち上げへ 【印】
報道によれば、1 月 20 日(土)(現地時間)、インド宇宙研究機構 (ISRO) のナイル総裁は、海洋資源研究目的の地球観測衛星「Oceansat-2/IRS-HB」の PSLV ロケットによる打ち上げを、2007 年末までに実施する予定と述べた。同衛星は、1998 年に打ち上げられた Oceansat-1 の後継機として、漁場の特定、海洋状況予測支援、沿岸地域研究支援、気象予測のためのデータ提供を実施する予定。

1 月 26 日(金)

- フランス高等教育・研究担当省と NASA、協力協定に署名

【仏、米】

1 月 23 日(火)(現地時間)、フランス高等教育・研究担当省において、同省の Francois Goulard 大臣と米国航空宇宙局(NASA)の Michael Griffin 長官が、米仏両国による宇宙探査及び宇宙の平和利用に関する協力協定に署名したと発表した。同協定は、両国における幅広い宇宙関連分野での協力に関する法的枠組みを規定するもので、米国の実施機関として NASA と米海洋大気庁 (NOAA)、フランスの実施機関として仏国立宇宙研究センター (CNES) を指定している。

- インドとロシアの両首脳、共同宣言を含む 9 件の合意書を締結

【印、露】

1 月 25 日(木)(現地時間)、インドを訪問中のロシアのプーチン大統領は、インドのシン首相と首脳会談を行い、両国の関係を一層強固にしていくことで合意した。同会談では、ロシアの航行測位衛星「グロナス(Glonass)」へのインドのアクセスや教育目的の小型科学衛星「Youthsat」の共同開発及び打ち上げなどの協力がまとめられた。

1 月 30 日(火)

- NASA、日本実験棟「きぼう」打上げ 1 便目の搭乗員を発表 【米】
1 月 29 日(月)(現地時間)、米国航空宇宙局(NASA)は、国際宇宙ステーション(ISS)の日本実験棟「きぼう」の「船内保管室」を打ち上げるスペースシャトル(STS-123 1 J/A)に搭乗する宇宙飛行士を発表した。今回のミッションには、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) の土井隆雄宇宙飛行士が搭乗することがすでに決定しており、また山崎直子飛行士が、同フライトの搭乗者支援宇宙飛行士として、地上からミッションを支援することになっている。